

## 令和3年7月 定例記者会見(報告)

1 日 時 令和3年7月 21日(水)13時～14時

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、読売新聞、河北新報、  
NHK、YBC、YTS

<市>市長、秘書広報課長、財政課長、税務課長、健康課長、

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 新型コロナウイルス感染症の拡大などで、市台所の財政事情は厳しさを増していると思われます。現状と今後の見通し、改善点などについてお伺いいたします。
- (2) 米沢市で新型コロナワクチンの大規模接種が始まっていますが、政府から8月以降のワクチンの供給量の見通しが見えないという自治体の声もあります。米沢市での今後のワクチン接種の見通し、また今後の接種計画に変更などありませんか。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和3年度7月の定例記者会見を始めさせていただきます。初めに市長から発言がございます。

○市長

今月の定例記者会見のご質問は2件でした。

まず1点目の「新型コロナウイルス感染症の拡大などで、市台所の財政事情は厳しさを増していると思われます。現状と今後の見通し、改善点などについてお伺いいたします」ということです。

新型コロナウイルスが発生して以来、令和2年度は地方創生臨時交付金など国の支援をいただきながら対応してきました。令和3年度においても、いまだコロナの収束が見えない状況の中で生活支援、経済対策支援をしていかなければならないということで、3月の

当初予算編成時、また6月の臨時会においても、関連予算を組んだところであります。

全体で 111 億円程度のコロナ関連の予算を編成、支援をしてきました。当然、の中には、市の持ち出しもあります。また、財政状況につきましても、令和3年度にどの程度の税収が確保されるかということも予算編成時においては大きな課題であったわけであり

ます。そういった中で見通しを立てながら、歳出においては、一般経常経費については極力抑えた金額になるよう各部に指示もしながら、効率的な財政運営に努めてきたところであります。

現状と今後の見通しですが、現状についてはそういった厳しい状況の中で、令和2年度の出納閉鎖も終わり、おおよその見通しが立ってまいりました。

当初予算編成をしていたよりも、税収においては上振れをしているというのが現状でございます。細かい数値などは、今日は財政課長、税務課長、コロナ関連では健康課長も同席しておりますので、詳細はそれぞれの課長から答弁をさせていただきます。

そういった状況の中で、見通しは当初の予算編成時よりも、若干余裕が出てきていると思っております。

コロナ禍において、財政の中長期計画の見直しをしてきたところでありますが、こういった上振れで、財政運営にどう変化が出てくるのか、改めて財政の見直しをしていく必要があるのではないかと考えております。

改善点については、新病院建設や、学校の統廃合によって学校建築も始まりますので、財政状況においては厳しさがなお一層続くものと考えております。歳出においては、効率的な財政運営に努めていかなければならないと思っております。

一般経常経費につきましても、令和3年度、こういった状況の中で削減をしておりますが、さらにどこまで削減できるかも含めて、常に財政状況は改善をしていく責務があると思っております。

なお、税収の確保について確定する金額は、7月26日の総務文教常任委員会に報告することになっております。

その金額についてご質問などあれば、お話できる範囲で財政課長からお話をさせていただきますと思います。

次に「米沢市で新型コロナワクチンの大規模接種が始まっていますが、政府から8月以降のワクチンの供給量の見通しが見えないという自治体の声もあります。米沢市での今後のワクチン接種の見通し、また今後の接種計画に変更などありませんか」というご質問でありました。

変更はあります。8月のワクチン供給は、当初の計画と比べて5割減、あるいは9割減という見通しがあります。そういった中であって、ワクチン接種の計画も変更せざるをえません。

まだはっきりと見通しが立っておりませんが、国の方針ではそういったことが言われております。ワクチン接種を待ち望んでおられる方も多くいらっしゃいますから、国にワクチン供給量の確保をお願いしていく必要があると思っております。

なお、7月17日現在の高齢者の接種率は、1回目の接種完了が約 87.5%であります。2回目の接種を受けられた高齢者の方々は、約 74.1%となっております。

高齢者接種は、7月で完了をするという見通しで取り組んでいる状況でございます。

また、64歳以下の方々の接種について、もうすでに接種券は配布をしております。

64歳以下の方々は、基礎疾患のある方から優先的に接種するという事で、すでに集団接種が6月23日から、そして個別接種が7月5日から対応しております。

基礎疾患のない方についても、年代などで区切りながら接種を予定していましたが、しかし、ワクチン確保が当初の計画よりも難しいという状況のため、集団接種がいつから始まるのかについては、広報で周知をさせていただくことになっております。現時点では未定です。

また、個別接種は一時停止となっております。

12歳以上15歳以下の方々の接種は、接種券の発送の時期を含めて、現在検討をしております。

年齢が下がれば下がるほど副反応が出やすいということもありますから、その辺りも含めて、状況を判断しながら対応してまいりたいと考えております。

集団接種につきましても、企業枠や職域枠は、当初はモデルナ社のワクチンとなっておりますが、ファイザー社のワクチンに変わりました。全体の供給量が少ない中で、職域接種についても、非常に厳しい状況にあります。

そういった状況で、接種計画につきましても変更せざるをえないというのが現状です。

詳細にわたってのご質問があれば、担当者からお答えをさせていただきますので、私からは、接種の見通しや計画の変更、方針についてお話をさせていただきました。

以上であります。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上となります。

これ以降の進行につきましては、幹事社にお渡しいたしますので、よろしく願いいたします。

○記者

今月に入ってから、国との間に県が入ってのワクチンのやりとりになったかと思うのですが、国と直接やりとりするのと、県を挟んでやり取りするのでは、やりやすさ、効率的なところで、どのように感じていますか。

○健康課長

ワクチンの希望や供給については、国と直接やりとりをするものではなく、県に希望量を出し、それを県から国に伝えて、国から県に配分されてきたものを、さらに県内の枠の中で調整して市町村の供給量が確定するという内容になっております。国と直接やり取りをしてワクチン供給をしていただくという仕組みにはなっておりません。

○記者

接種予約再開の目途は立っていないのでしょうか。

○健康課長

現在、60歳以上の方と、16歳以上の基礎疾患を持ちの方が集団接種の予約をできる

という状況になっております。60歳未満で基礎疾患がない方の予約は、これからのワクチン供給量の確定を受けて、どの年代まで予約を受けられるかも含めて、検討しております。決まりましたら広報などでお知らせをしながら、順次進めてまいりたいと思っております。

○記者

コロナ対策費が111億円程度ということですが、これは昨年度と今年度と合わせてでしょうか。

○市長

合わせてです。

○記者

昨年度と今年度いくらくらいずつでしょうか。

○財政課長

今年度につきましては、事業費で6億3000万円ほどになっております。それを差し引いての額となりますから、昨年度は104億円程度です。詳しくは、ホームページに一覧が出ておりますので、そちらを確認いただければと思います。

○記者

コロナ禍ではありますが、税収の見通しが例年より増えそうかどうかということでしょうか。

○市長

増えそうかどうかというよりも、当初の予算編成時における見込みよりも上振れしているという状況です。

○記者

国でもそういった話がありますが、一般的な景気、といいますか、肌で感じる景気と食い違いがあるような気がします。

○市長

昨年度、持続化給付金や、経済対策の中で飲食店などに支援をしてまいりました。その中で、働いておられる方々の所得も少なくなるだろうという予想もありました。これは税収に反映されるわけでありまして、ただし、その額がどの程度になるかということは見通しが立たない中で、新年度の予算編成をいたしました。お話にありますように、市内の経済が減速している中ではありますが、税収においては、もちろん市税収入は下がっておりますが、思った以上にその影響が少なかったと感じています。

○記者

111億円の支援の効果があったということでしょうか。

○市長

そう考えております。

○記者

米沢四季のまつり委員会正副会長会議もあったようですが、秋まつりと上杉まつりの見通しはどうなっていますか。

○市長

春の上杉まつりでは、スタートを飾っていたのが民謡流しでした。アンケートをとったところ、参加できる団体は従来どおりにはいかず、約3分の1の団体から参加できると回答をいただきました。民謡流しについては、100名前後であります。距離を置きながら、間隔をとりながら開催させていただくことになります。

また、武てい式、川中島合戦については、伝国の杜内で行うことになりますから、従来の武てい式、川中島合戦ということではなく縮小して行うということで、それぞれの保存会の中で検討をしていただいております。

そのほかのイベント、例えば食についても出店を募集していくということで、正副会長会議の中では方向性を出させていただきました。正式には、8月6日に実行委員会を開催させていただきました。そこで詳細を決定するという事になっております。

どこまでPR、広報をするかということも話題になりましたが、置賜周辺、あるいは山形市くらいまでの中で広報を行うということも確認をしました。

そして、感染者が出た場合にどの時点でどう対応するかという話もしました。

県が定めています緊急事態のレベルが3です。

3からなかなか下がってこない状況の中で、米沢市でその時期に感染者が出た場合にどうするかということは、感染者数にもよりますが、1週間前には最終判断をするということを確認させていただきました。

8月6日の実行委員会で了解をいただければ、正副会長会議で取り決めたことについて、春から延期されている上杉まつりと、なせばなる秋まつりを合同で行うということで確認をしたところであります。

○記者

民謡流しは外で行いますか？

○市長

はい。唯一、民謡流しが道路を使って今までと同じように、旧米織会館から伝国の杜まで流すということで、これは変わりません。ただし、間隔を空けて行います。

○記者

先日、紅花まつりがありました。夏祭りとして紅花まつりを、という話でしたが、これは正副会長会議で決めたことですか

○記者

基本的な考えとしまして、おそらく来年度、世界農業遺産に認定されるだろうと県から報告をいただいております。正式な議論としては提案をさせていただけなかったのですが、夏の紅花ということで、方向性は今までどおり示していきたいと思っております。

○記者

これからもっと大きなお祭りしていきたいということですか。

○市長

世界農業遺産に認定された場合に、どのように継続していくかということが大きな課題になってくると思っております。これは山上地区の皆さんともお話をしましたが、これからどう

やって全市的に紅花の栽培を進めていくかということも含めて、生産拡大、栽培拡大を進めていくかが課題です。

また、加工するとなると色々なケースが考えられますから、そういったものについても、準備を進めていきたいと考えております。

○記者

認定がいつごろになるという連絡ありますか。

○市長

県の担当の話を見ると、まず4市4町だったのが、1市が外れたということを知っております。

そういった中で、コロナが関係して現地視察ができない状況になっているようです。来年以降、もう少しコロナが収束した場合に現地確認をして、世界農業遺産に認定となるということで、いつ頃になるかということまでは、県でも把握していないというのが現状ではないかと思っております。

1市外れたことについて補足ですが、市では栽培をしているところが米沢市、山形市、天童市です。

酒田市は集積場所であって、かつては北前船で京都などに紅花を運んだということですが、栽培はしていないため酒田市が除外されたという話を聞いております。

この前の、県の担当者会議の中でそういう話があり、それは酒田市も了解をしているという報告を受けています。

○記者

ワクチンの件で、国は地方にワクチンを出していると言っていて、地方はワクチンが足りないと言っており、ここにギャップがあるようです。ワクチン担当大臣から、地方が過剰在庫を抱えているのではないかという話もありましたが、米沢市の場合は、どれぐらいのワクチンが適正在庫と考えていて、現状どうなのか。教えてください。

○健康課長

2回目接種分までのワクチンを確保して、それを保管しているだけの部分についても、国では地方に在庫があるとみなしています。これは必要な在庫と言いますか、2回目の分まで確保しておかないと、2回目の接種ができなくなるので、どうしても在庫としてはその部分が発生してしまいます。その部分について、国からは使わない余剰の在庫と言われてしまうところが、現状のシステムの中ではあります。

どのぐらいの在庫が必要かということですが、単純に考えますと、2回分のワクチンを確保してやっと1人に接種が実施できますから、例えば、2,000人の接種を計画作るためには、4,000回分のワクチンが必要だということです。およそ4箱のワクチンが来れば、2,000人の集団接種の計画ができるという状況になっております。現状では、8月の最初の週に米沢市には5箱ぐらいしかワクチンが入ってきません。そのワクチンでは、2,500人弱の接種しか計画できません。

どのぐらいの量が適正かというご質問ですが、1回目の接種数と同じ数のワクチンが余剰としてなければ、2回目の接種ができないという考え方で接種計画を作っています。

○市長

1回目の接種をしたら登録をすることになっているが、その登録が遅れているから、接種していないと国が判断しているのではないか、という話もある。米沢市ではそのあたりはどうなっているのか。

○健康課長

接種の実績は、接種記録システムを使って国では把握をするのですが、米沢市の場合は接種した日、あるいは翌日には必ず全部読み込んで接種実績を登録しています。自治体によっては、その接種記録システムへの登録が進んでおらず、数値上は接種がまだ終わってなくてワクチンが残っているとみなされている自治体もあります。

○市長

その部分では、米沢市はシステム上の在庫はないということで間違いないか。

○健康課長

そういう在庫はございません。

先ほどお話したような、2回目に打つ分を実際の在庫として持っているだけです

○記者

1回目を打ち終わっているのは87.5%ということでしたが、残りの12.5%分の在庫はないということですか。

○健康課長

はい。1回目を打った方の、2回目分のワクチンだけは取っておりますが、それ以上のワクチンの在庫はございません。

○記者

県内でも熱中症で死者が出ていますが、米沢市としてはその熱中症に対する呼びかけはどのようなふうにしていますか。

○健康課長

先日、熱中症警戒アラートが発令された時などは、その情報はLINEなどでお知らせをして注意を呼びかけました。そのほか、チラシなどを用いながら熱中症対策を呼びかけております。

○秘書広報課長

それでは、これをもちまして令和3年度7月の定例記者会見を終了させていただきます。